（様式 11）

令和　7　年　5　月　29 日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　5　月　28　日　(水) |
| 出　張　先 | 御前崎市佐倉 5561<br>中部電力(株)　浜岡電子力発電所 |
| 出張の理由 | 浜岡原発における緊急時対策の取組や、津波対策の現況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 戸出　誠 |

（出張の顛末）

中部電力では、電力のベストミックスを考え、浜岡原子力発電力での、3 号機と 4 号機の運転再開を目指し、新規制基準に沿った審査が進め、特に、南海トラフ巨大地震のリスクを考慮し、安全対策の強化が進められている。

主な取り組み

- 防潮堤のかさ上げ：想定される津波の高さが 25.2m とされたため、現在の防潮堤の高さからさらに 6m かさ上げする方針。
- 電源喪失対策：津波の影響を受けないように海抜 40m 地点にガスタービン発電機を設置し、原子炉の電源喪失時に備えている。
- 使用済み核燃料の管理：乾式貯蔵施設を設置し、4400 体の使用済み燃料を一時貯蔵できるようにする計画。
- 住民とのコミュニケーション：地域住民への説明を強化し、理解を得るための取り組みを進めている。

再稼働に向けた取り組みは進行中であるが、それとともに地元住民の理解や安全対策のさらなる強化が重要であるとの説明。

所感：防潮堤の再整備については、審査基準としての高さが了としてもらえることが前提なっているので、中部電力としては、６ｍの嵩上げで対応可能としているが、認められるかは不確定であり、確定してからも整備計画は根本から設計することとなる為、現在の防潮堤も整備に突貫工事で１年３カ月掛かったことを考えると現在の建設業の状況を考えると、整備に相当の期間が掛かる

（様式11）

| |
|---|
| とすると、電力のベストミックスを考える上では、現在の発電技術の中では、原子力発電は不可欠的な技術であることから再稼働を目指すことは理解できるが、安全性の担保が万全であるとは言い切れない状況であると考える。安全性のこと、再稼働までかなりの時間が掛かること、防潮堤の再整備に相当額の金額が掛かることを考えると再稼働を目指すことが良いのかと疑問に感じた。<br>最後に、中部電力が進めている地震対策については、想定外が起こらないように３重４重に考えていることは、理解できたことは視察して良かった。 |
| （備考） |

（様式11）

令和　7　年　5　月　30　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松

代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　5　月　28　日（水） |
| 出　張　先 | 御前崎市佐倉5561　　中部電力(株)　浜岡電子力発電所 |
| 出張の理由 | 浜岡原発における緊急時対策の取り組みや、津波対策の現況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 須藤　京子 |

（出張の顛末）

浜岡原子力発電所において「日本のエネルギー事情と原子力発電について」そして「浜岡原子力発電所における主な安全対策について」お話を伺い、施設内の見学を行った。

日本のエネルギー政策の基本な方向性を示す「第7次基本計画」は、エネルギーの安定供給の要として S＋3E（安全性、安定供給、経済効率性、環境適合性）を維持しつつエネルギーの安定供給を第一に、経済効率性の向上と環境への適合を図っている。その中でも、原子力は安定供給性に優れ、技術自給率も有しており他の電源とそん色のないコスト水準で変動も少なく、一定出力で安定的に発電可能な電源と位置付けられている。原子力であることと、災害時の対応についての国民からの信頼を得るために安全性の確保を大前提として必要な規模を持続的に活用していくことを目指している。

そのために、東日本大震災以降の対策として現在18メートルの防護壁をもう10メートルかさ上げすることからはじまる安全対策にも注力されている様子が詳しく説明された。かつて稼働していた1・2号機は廃炉に向けて準備中であり、現在は稼働率0ではあるが、3号機と4号機は運転再開を目指している。原子力発電所が再稼働することで、安定的に電力が供給され、今後も増大していく電力消費に応えるための電力供給には大きな期待が寄せられることは容易に想像できる。しかしながら、災害対応に加えてテロ対策としてもセキュリティシステムの工事を施工中である。莫大な金額を投入し、災害やテロの脅威ばかりではなく「原子力」の安全性確保に腐心する状況から、大規模発電に頼るだけではなく、地域ごとの小規模発電のあり方を検討されてもよいのではないかとも感じた。

（様式11）

令和　7　年　5　月　30　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　5　月　28　日　(水) |
| 出　張　先 | 御前崎市佐倉 5561<br>中部電力(株)　浜岡電子力発電所 |
| 出張の理由 | 浜岡原発における緊急時対策の取組や、津波対策の現況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 倉 田 清 |

（出張の顛末）

1．浜岡原子力発電所（1～5号機）の概要

①形式：1～4号機は沸騰水型軽水炉（BWR）
　　5号機は改良型沸騰水型軽水炉（ABWR）

②現状：1・2号機は廃止措置中（2042年廃炉）
　　3・4号機は適合性確認審査中
　　5号機は適合性確認審査申請準備

2．浜岡原子力発電所の取組

①現在、3・4号機の新規制基準に沿った適合性確認審査が進められ、特に、南海トラフ巨大地震のリスクを考慮し、安全対策の強化が進められている。その主な取り組み

・防潮堤のかさ上げ：想定される津波の高さが25.2mとされたため、今後、現在の防潮堤の高さから更に6m高上げする方針。
・電源喪失対策：津波の影響を受けないように海抜40m地点にガスタービン発電機を設置し、原子炉の電源喪失時に備えている。
・使用済み核燃料の管理：乾式貯蔵施設を設置し、4400体の使用済み燃料を一時貯蔵できるようにする計画。
・住民対策：地域住民への説明を強化し、理解を得るための取り組みを進めている。

（様式11）

3．所　感

現在、1・2号機は2042年の廃炉に向けて措置が進行するとともに、3・4・5号機の再稼働に向けた取り組みは進行中であるが、地元住民の理解や安全対策の更なる強化が重要であると感じる。

また、更なる6mの防潮堤嵩上げは、今まで以上の期間と多大な費用が掛かることが想定される。それに係る財源は我々の電気料金に加算されており、費用対効果の更なる検証が必要である。

また、青森県六ケ所村の再処理工場が2026年度完成し、使用済核燃料を再処理し、残ったウランとプルトニュームを改修して「MOX燃料」として再利用する核燃料サイクルが可能となる計画である。

その整備中の再処理工場は完成が26回延期されており、2026年完成も懸念されるが、資源の無い日本には最低限の原子力発電は必要であると考える。

必要な安全対策が施され、浜岡原子力発電所の3～5号機の再稼働を期待する。

（備考）

（様式11）

令和7年5月30日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　5　月　28　日（水） |
| 出張先 | 御前崎市佐倉5561　中部電力(株)　浜岡電子力発電所 |
| 出張の理由 | 浜岡原発における緊急時対策の取組や、津波対策の現況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 齋藤和志 |

（出張の顛末）

浜岡原子力発電所では、3号機と4号機の運転再開を目指し、新規制基準に沿った審査が進め、特に、南海トラフ巨大地震のリスクを考慮し、安全対策の強化が進められている。

主な取り組み

・防潮堤のかさ上げ: 想定される津波の高さが25.2mとされたため、現在の防潮堤の高さからさらに6mかさ上げする方針。

・電源喪失対策: 津波の影響を受けないように海抜40m地点にガスタービン発電機を設置し、原子炉の電源喪失時に備えている。

・使用済み核燃料の管理: 乾式貯蔵施設を設置し、4400体の使用済み燃料を一時貯蔵できるようにする計画。

・住民とのコミュニケーション: 地域住民への説明を強化し、理解を得るための取り組みを進めている。

再稼働に向けた取り組みは進行中であるが、それとともに地元住民の理解や安全対策のさらなる強化が重要であるとの説明を受ける。

（備考）

浜岡原子力発電所の再稼働については、賛成・反対の両方の意見があり、それぞれ異なる視点から議論されている。

賛成意見としては、①電力供給安定②地元経済活性化・雇用創出③CO2排出削減、反対意見としては、①南海トラフ地震による安全性への大きな懸念②使用済み核燃料の処分③住民の不安がある。この議論は地域社会や国のエネルギー政策や経済政策(特に生成AIの電力増大)に深く関わるため、慎重な検討を要すると思慮する。

# 自由民主党浜松視察報告書

井田博康

視察日程　令和７年５月28日（水）

視 察 先　浜岡原子力発電所

視察内容　・浜岡原子力発電所における主な安全対策の取り組みついて

視察議員　戸田　誠、花井和夫、須藤京子、倉田清一、齋藤和志、井田博康、露木里江子
神間郁子、藤田典良、鈴木裕之

---

説　明

福島第一原子力発電所の事故の推移（概要）の説明を受けました。

東日本大震災が起き、地震の揺れを感知して、原子炉が自動停止した。その時、地震の影響により、全ての外部電源が喪失したが、非常用ディーゼル発電機からの電源供給があり、原子炉への注水は継続されていた。その後、建屋内に津波が浸水し、非常用ディーゼル発電機が使用不能となり、原子炉を冷却する機能が喪失し、炉心損傷という重大事故が発生した。炉心損傷により発生した水素が格納容器内へ放出し、格納容器の破損により原子炉建屋内へ水素が漏えいし水素爆発が発生した。そして、格納容器から大気中へ放射性物質が放出した。

この事故を教訓として浜岡は主な安全対策を行っている。

地震に備える試みとして排気筒補強工事、配管・電炉類のサポート工事、火災竜巻対策として軽油タンクの地下化を行っている。津波に備える試みとして防波壁を22mから28mまで高くする計画をしている。開口部の津波対策として、強化扉や水密扉を採用している。敷地内にある種水槽から敷地内への海水流入を防止する壁を作ってある。冷却機能の確保としては電源設備である緊急時ガスタービン発電機は海抜40mの場所に配置し、建屋は免震構造で作られていて、電源車も配備されている。その他、格納容器の破損を防ぐ対策や原子炉建屋の破損を防ぐ対策も施されている。

所　感

福島第一原子力発電所の事故の一番の直接の原因である、冷却機能の確保に関しては、冷却水の取水から注水に欠かせない電源の確保する為の自家発電機能である

緊急時ガスタービン発電機設備の建屋に免震工法を採用している事や、その燃料の軽油タンクを地震につきものである火災や竜巻に対応するため、地下に設けていることなどから、何があっても原子炉を冷やし続けるという強い意志を感じた。

防波壁に関しては、18mから22mに嵩上げをし、更に6m上げて28mまでにする計画であるが、現在14年運転を休止している中お金も時間も相当掛かると考えるが安全性を保つには仕方のない事だと感じた。

最後に、使用済み燃料について気になったが、使用済み燃料は10年間冷やし続け保管しているが、2026年に青森県の六ケ所村に再生工場ができ再利用する形になるが、最終処分には至らないとの説明であった。使用済み燃料が無くならないのであれば他の電力発電を考えるしかないのかと感じた。

| | |
|---|---|
| 令和　7　年　5　月　30　日提出 | |
| （あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松<br>代表者　会長　平野　岳子　様 | |
| 報　告　書 | |
| 出張年月日 | 令和　7　年　5　月　28　日　(水) |
| 出　張　先 | 御前崎市佐倉 5561　　中部電力(株)　浜岡電子力発電所 |
| 出張の理由 | 浜岡原発における緊急時対策の取組や、津波対策の現況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 露木里江子 |

出張の顛末

浜岡原子力発電所では、現在３号機および４号機の運転再開に向け、新規制基準に基づく原子力規制委員会の審査が進められている。特に南海トラフ巨大地震の発生リスクを踏まえ、地震および津波への備えを中心とした安全対策の強化が図られていることが確認された。

主な取り組みとして、まず防潮堤のかさ上げ工事が挙げられる。想定津波高さが 25.2 メートルとされたことを受け、既存の防潮堤にさらに６メートルを追加してかさ上げする方針である。これにより、津波による浸水リスクを一層低減させることが狙いである。また、電源喪失への備えとして、海抜 40 メートル地点にガスタービン発電機を新設し、津波の影響を受けない形で非常用電源を確保する体制を整備している。これらの対策は、東日本大震災での教訓を踏まえ、より実効性の高い多重防護を実現するものである。

さらに、使用済み核燃料の安全な保管も重要な課題である。発電所では乾式貯蔵施設の設置を進めており、約 4,400 体の使用済み燃料を一時的に保管できる能力を確保する計画である。冷却用水を使用しない乾式方式は、自然災害時にも安定した管理が可能である点が評価される。また、地元住民との信頼関係構築にも力が注がれており、説明会や見学対応を通じて、事業者側が安全対策や再稼働の必要性を丁寧に説明する取り組みが行われている。

一方で、視察を通じて感じたのは、国の原子力政策の方向性が定まらない中で、長期にわたる安全管理を継続することの難しさである。稼働停止中であっても、施設の維持・監視・点検・人材確保には多大なコストが必要であり、その負担は最終的に電気料金を通じて消費者に転嫁される可能性がある。この点については、国や事業者が透明性を持って説明し、社会全体で負担の在り方を議論していく必要があると感じた。

総じて、浜岡原子力発電所は国内でも最も厳しい自然災害リスクを想定した安全対策を講じており、その努力は評価に値する。しかし、再稼働の是非を判断するには、安全性の確保だけでなく、地元住民の理解と信頼、そしてエネルギー政策全体の方向性を見据えた慎重な対応が求められる。

（様式11）

令和　7　年　5　月　29　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　5　月　28　日（水） |
| 出　張　先 | 御前崎市佐倉 5561<br>中部電力(株)　浜岡電子力発電所 |
| 出張の理由 | 浜岡原発における緊急時対策の取組や、津波対策の現況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 神間郁子 |

（出張の顛末）

日本のエネルギー政策の事情と原子力発電についてレクチャーを受けた。

２０２５年２月に策定の「第７次エネルギー基本計画」では、S＋３E（安全性・安定供給・経済効率・環境適合性）を維持し、安全性を大前提にエネルギーの安定供給を第一として、経済効率性の向上と環境への適合を図るとしている。原子力の位置づけは、優れた安定供給性、技術自給率をゆうし、他電源とそん色ないコスト水準で変動も少なく、また一定出力で安定的に発電可能などの特徴を有していることから、国民からの信頼確保に努め、安全性の確保を大前提に、必要な規模を持続的に活用していくとしている。

１４年稼働停止状態の浜岡原発の緊急時対策の取り組みや津波対策の現状について、現地視察を含め状況を確認した。

１，２号機は廃炉措置中、３．４．５号機は安全性対策実施中。で稼働している状況ではない。福島第一原発の事故以降、「地震に備える」「津波に備える」「冷却機能の確保」「格納容器の破損を防ぐ」「原子が建屋の破損を防ぐ」点で安全対策の強化を図っている。福島第一の時には、地震後の津波により、発電所敷地内及び建屋内に浸水したことで、全電源の喪失が重大要因であったことから、防波壁や強化扉・水密扉、主水槽からの敷地内への海水流入を防止する壁など、実際にかなりの強化対策が施されている。冷却機能を確保では緊急時ガスタービン発電機・電源車の配備が万全である。

また、テロ行為に対してかなり神経を使ったセキュリティシステムが現在も工事中である。使用済み燃料には核武装へ転換可能な資源が残っており、テロによる攻撃や占領をされてしまうと日本の安全保障の点で重大な問題に発展する。

電気料金の高騰の中、エネルギーの安定供給の政策上重要な原発であることは理解できる。それを稼働していない現状でも安全に維持し、また稼働した段階ではさらに神経を使う運営が求められる。さら安全性の確保が大前提であるので、それらをどれも手を抜くことなく取り組まなくてはならない。莫大なお金と、早急な対策、来るべき南海トラフを前に、非常に悩ましい施設でありながらも、非常に重要な施設であることが改めて理解できた。

（様式 11）

令和　7　年　5　月　29　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和 7 年 5 月 28 日（水） |
| 出　張　先 | 御前崎市佐倉 5561<br>中部電力(株)　浜岡電子力発電所 |
| 出張の理由 | 浜岡原発における緊急時対策の取組や、津波対策の現況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 藤田　典良 |

（出張の顛末）

浜岡原発は、2011 年の福島第一原発事故を受け、同年 5 月より全号機が運転停止となっており、以降 14 年にわたり再稼働は行われていない。現在も新規制基準への適合に向けた安全対策および原子力規制委員会による審査対応が継続している。

視察では、中部電力株式会社の担当者より、災害に備えた各種安全対策について説明を受け、施設の現場確認を行った。主な対策は以下の通りである。

1、地震対策…将来発生が予測される南海トラフ地震を想定し、全設備の耐震補強を実施。原子炉建屋は震度 7 相当の揺れに耐えうる構造となっており、重要機器は揺れの少ない場所へ再配置されている。

2、津波対策…海抜 22m の防波壁（全長約 1.6km）を設置し、将来的には 28m への嵩上げも計画されている。原子炉建屋の水密化も進められており、津波侵入への備えが強化されている。

3、電源・冷却対策…非常用電源は多重に確保されており、津波の影響を受けない高所に設置されている。冷却機能も多重化されており、特定重大事故等対処施設の整備により、事故時の放射性物質放出リスクも低減されている。

4，防災体制…静岡県や御前崎市と連携した原子力防災訓練を定期的に実施。発電所職員向けの教育・訓練も行われており、緊急時対応力の強化が図られている。

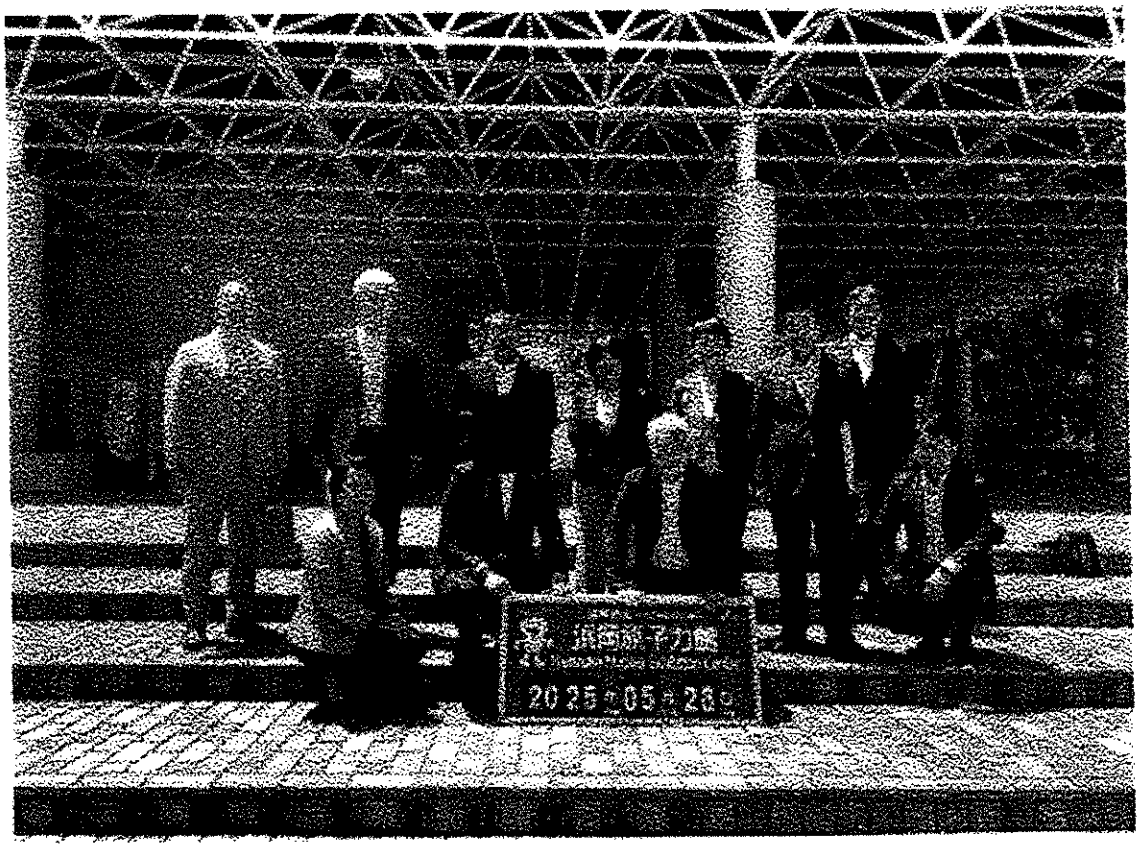
再稼働が実現すれば、中部電力管内（静岡・愛知・岐阜・三重・長野）の約 2 割の電力を賄うことが可能とされ、特に富士川以西の静岡県地域において安定供給源としての役割が期待されている。

浜岡原子力発電所では、「重大事故を二度と起こさせない」という強い覚悟の下、ハード・ソフトの両面における安全対策が着実に進められている。今後も再稼働に向けた取組が慎重かつ丁寧に進展することを期待するとともに、安全を守る現場の不断の努力に敬意を表したい。

（備考）中部電力株式会社　ご担当者
●原子力本部[redacted]氏
●浜岡地域事務所[redacted]氏

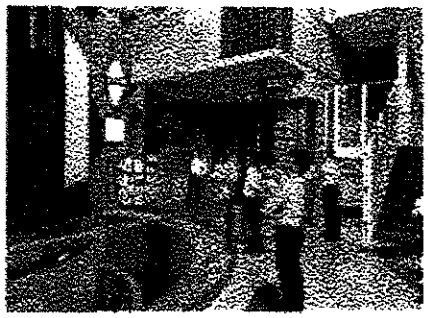
令和７年５月30日
自由民主党浜松

# 視察報告書




浜松市議会議員
鈴木裕之

日時：2025年5月28日（水）9：30－12：30
訪問先：中部電力 浜岡原子力発電所
目的：浜岡原子力発電所の安全対策等の取組みを視察し、国のエネルギー施策に対する理解を深め、本市の災害対策への施策へ視野を深める。

【要旨】
・浜岡原子力発電所は、常に最新の知見を反映し、安全施工所に努めている。東京電力福島第一原子力発電所の事故以降も、津波対策や重大事故等対策などを自主的に進めるとともに、新規性基準を踏まえた追加対策に取り組むなど、安全対策を積み重ねている。
・浜岡原子力発電所は1号機から5号機まであるが、1号機と2号機は2009年1月30日に運転を終了し、現在廃止措置中。3号機と4号機は適合性確認審査中。5号機は適合性確認審査申請の準備中。
・中部電力としては、3、4、5号機の再稼働を優先したうえで、時期を見て6号機の建設を予定している。
・浜岡原子力発電所で働く従業員は、中部電力730名と協力会社2045名の計2775名。(2025年5月1日現在)
・防波壁をさらに高くする工事が終わらなければ再稼働は無い。

●原子力発電所の安全対策
原子力発電所の安全を守る基本は、止める、冷やす、閉じ込めるの3ステップ。電気発電は、運転を止めた後も、燃料から熱が発生し続けるため、原子炉への注水などによって、原子炉内の燃料を冷やし続け、放射性物質を閉じ込めることが重要。福島第一の事故では冷やすことに失敗し、最終的に放射性物質を閉じ込めることができなかった。

●地震対策
浜岡原子力発電所は、原子炉建屋をピラミッドのような安定した構造とし、岩盤に直接設置して地震の揺れに強い剛構造としている。また、建屋内の配管等へのサポート改造工事や排気筒の周囲を支持鉄塔で囲む工事などを実施し、自主的に耐震性を強化している。

●津波対策

海抜 22 メートルの防波壁を総延長約 1.6 キロメートルを設置するとともに、両端部は海抜 22 メートルから 24 メートルの改良盛土を設置している。また、原子炉建屋などの耐圧性防水性を強化している。具体的には、防水扉の水密扉への取り替えと、強化扉の新設による二重化などにより、建屋の耐圧、防水構造を強化し、建屋内への浸水を防ぐ対策を取っている。2024 年に基準津波は海抜 25.2 メートルに決まり、防波壁の設計方針の変更を発表。現在の防波壁 18 メートルから海抜 28 メートルの高さまで防犯壁を建設することを決めた。

●冷やす対策

万が一、福島大地と同様に冷やす機能を失った場合にも想定し、電源供給、注水、情熱について複数の代替手段を講じている。仮に、電源供給が止まった場合でも、可搬型の注水ポンプを活用するとともに貯水タンクや取水槽などを水源とし、原子炉につながる配管につないで注水が可能。

●原子力発電の利点

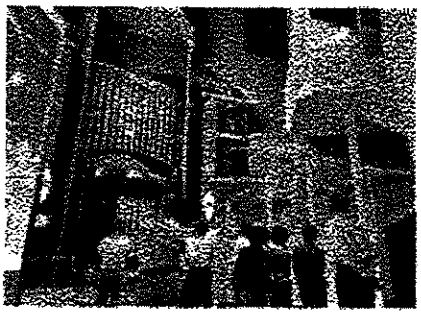
原子力発電の燃料は、少量でたくさんの電気を安定的に供給することができ、使用を終えた燃料は再利用することが可能。近年、化石燃料価格が高騰し、電気料金の上昇が生じているが、原子力発電は、火力発電に比べ発電コストに占める燃料費の割合が小さいため、燃料価格の高騰が生じても、電気料金上昇への影響は小さい。原子力発電は、CO2 を排出しないエネルギーとしてカーボンニュートラルに資する。

【所感】

浜岡原子力発電所の稼働が停止してすでに 14 年が過ぎた。この間に、国の方針に基づき、災害対策、とりわけ津波対策等の対応を進めている。防波壁の下に立つと、その高さに驚くが、近い将来に現在の 18mから 28mへとさらに高い壁にするとのことだ。この防波壁の建設が終わらなければ浜岡原子力発電所の再稼働はない。現在の防波壁を建てた際は、24 時間を 3 交代で突貫工事を行い、13 か月で建設したが、今は国の働き方改革や施工業者の人手不足もあり、前回のような突貫工事を実施するのは容易ではないだろう。高さも然り、建設には更なる時間がかかることが見込まれる。

浜岡原子力発電所が再稼働した場合、中部電力全体の 2 割程度に相当する電力が安定的に供給可能という。ここ数年で、日本全体で電気代が高騰した。原発停止の影響があったことは、言うまでもない。原発を再稼働させることによって、日本国内に安定的な電力供給可能なことと引き換えに、原発のリスクをどう捉えるのかは常に念頭に置いて考えるべきだ。青森県六ケ所村に来年から稼働が見込まれている使用済み燃料のリサイクルが可能になれば、資源エネルギーがない日本にとっては、安定的な電力

が見込まれる意義は大きい。他方で、ペロブスカイト太陽電池など新しい技術開発も進んでいるのも事実だ。災害リスクが低い自然エネルギーへの投資も引き続き模索することも重要と考える。今回の視察で中部電力があらゆるリスク対策を想定し、形にしていただいていることがよく理解できた。市民生活において電力会社が果たす役割は非常に大きく、今後も地域の安全安心を第一に考え、安定的なインフラ供給をお願いしたい。





（様式６）

# 旅　費　支　払　証　明　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和７年６月19日（木）　１日間 |
| 出張先（目的） | ①浜名湖ネイチャーズ<br>②愛知県田原市　バイオマス発電合資会社　　視察・現況調査 |

| 出張者氏名 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 柳川樹一郎 | ~~太田　康隆~~ | 渥美　誠 | ~~花井　和夫~~ |
| | 鳥井　徳孝 | 須藤　京子 | 倉田　清一 | 加茂　俊武 |
| | 平野　岳子 | 齋藤　和志 | 井田　博康 | 久米　丈二 |
| | 露木里江子 | 小野田康弘 | 神間　郁子 | 中野　和幸 |
| | 辻村　公子 | 藤田　典良 | 鈴木　裕之 | （計17名） |

## 旅　費　額　内　訳

| 項　目 | 金　額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 視察費 | 25，500円 | ①乗船代 @1,500円 × 17名分 ／ 6/19 浜名漁業弁天島遊船組合（領収書添付） |
| 交通費 | 104，910円 | ②バス借上代（駐車場代含）浜松城公園 ― 浜名湖 ― 田原市 ― 浜松城公園 |
| 日当 | 25，500円 | @1，500円 × 1日 × 17名分 |
| 土産代 | 2，522円 | ③田原市　田原バイオマス発電合資会社宛／（株）JAあぐりパーク |
| | | |
| 合　計 | 158，432円 | |

| 金　額 | | 百 | 拾 | 万 | 千 | 百 | 拾 | 円 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ¥ | 1 | 5 | 8 | 4 | 3 | 2 |

上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。

令和７年　６月　20日

代表者　会長　平野　岳子　[redacted]

〈詳細〉

借上げバス料用視察日程

9:15 浜松市役所 ＝＝ 視察 10:00~11:00 浜名湖ネイチャーズ ＝＝ 田原市 視察 13:30~14:30 田原バイオマス発電合資会社 ＝＝ 16:00 浜松市役所

※２ヶ所の視察先に於いて、会派統一行動及び、地理的要因の為、バスを借上げての視察・移動するのが最適と判断し催行した。

（借上げバス代 領収書裏面添付／（株）サニートラベル社【6/20 支払】）

お客様No. [redacted]

# 請　求　書

No. 1-1

25 年 6 月 30 日 締切分 (30)

<静岡県知事登[redacted]2-370号>
株式会社サニートラベル
〒433-8125
静岡県浜松市中[redacted]936番地の503
TEL 053-476-0432 FAX 053-476-0565

自由民主党　浜松 御中

<振込先> 静岡銀行　葵町支店(普) 0346193
浜松いわた信用金庫 和合支店(普) 0648180
遠州信用金庫　本店営業部(普) 1080162

TEL:　　FAX:

担当者 [redacted]
登録番号：T8080401001994

| 前回御請求額 | 繰越金額 | 調整額 | 御入金額 | 御買上額 | 内消費税等 | 今回御請求額 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 0 | 104,910 | 9,537 | ¥104,910 | | |

| 伝票日付 | 伝票No. | 内容 | 数量 | 単価 | 金額 | 税率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 25/ 6/20 | 845 | 6/19 中型バス代 | 1 | 104,500 | 104,500 | *10.0% |
| | | 駐車代（弁天島） | 1 | 410 | 410 | *10.0% |
| | | 【合　　計】 | | | 104,910 | |
| | | (内消費税等) | | | 9,537 | |

| 税率 | 課税対象額 | 消費税等 |
|---|---|---|
| 10.0 | ¥95,373 | ¥9,537 |

13809

## 領収証

様

[redacted]

円

[redacted] 200円

株式会社 サニートラベル [redacted]

[redacted]

T8080401001994

注)※印は軽減税率(8%)適用商品

上記振込先に　　月　　日までにお振込みください。
振込手数料は貴社(貴方)ご負担にてお願い申し上げます。

① 6/19 知人 アルミ缶

# 領収証

No.

様

金額 ¥12,600

内訳

現金

小切手

手形

消費税額等( %)

但 釣代

令和7年 6月19日 上記正に領収いたしました

収入印紙

〒431-0214 浜松市中央区舞阪町弁天島3775-2

**浜名漁協弁天島遊船組合**

主携帯 090-5191-6820 副携帯 0[redacted]

FAX 053-596[redacted]

コクヨ ウケ-395

移印

② 6/19 知人 アルミ缶

¥12,600 6/20受取

③

# 食彩村

あぐりパーク 食彩村
豊橋市東七根町字一の沢113
TEL:0532--21--3901

登録番号 T5180301009214
(株) JAあぐりパーク食彩村
返品交換にはレシートが必要です。
営業時間は朝9時から夜6時です。
毎月第1水曜日が定休日です。

2025年 6月19日(木) 12:35 ¥000028
001028精算機8 3321

お会計券 ¥000006 R6551 12:35
000025 浅野

| | |
|---|---|
| 内8 0620 らっかもなか12 | ¥1,400 |
| 内8 0620 うなぎパイ | ¥1,122 |
| 小計 | ¥2,622 |
| (内税 8%対象額 | ¥2,522) |
| 買上点数 | 2点 |
| 合計十 | ¥2,522 |
| (税率 8%対象額 | ¥2,522) |
| (内消費税等 8% | ¥186) |
| お預り | ¥3,000 |
| (内消費税等 | ¥186) |
| お釣り | ¥478 |

内8は軽減税率対象商品です。

[redacted]

領収書と合計金額が一致

（様式8）

令和７年５月１４日

会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会 長　平野　岳子　様

申請議員　視察幹事　久米　丈二 [redacted] ㊞

# 出　張　届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

1　出張者

平野　岳子 議員、齋藤　和志 議員、加茂　俊武 議員、久米　丈二 議員、
井田　博康 議員、辻村　公子 議員、柳川樹一郎 議員、~~太田　康隆 議員、~~
源美　誠 議員、~~花井　和夫 議員、~~鳥井　徳孝 議員、~~高林　修 議員、~~
須藤　京子 議員、倉田　清一 議員、~~松本　雄夫 議員、~~露木里江子 議員、
小野田康弘 議員、神間　郁子 議員、中野　和幸 議員、藤田　典良 議員、
鈴木　裕之 議員

（計~~21~~17名）

2　期間及び出張先

令和 ７ 年 ６ 月１９日（木）　１日間
①弁天・浜名湖ネイチャーズ
②愛知県田原バイオマス発電合資会社

3　目的

①浜名湖におけるアマモの再生、及びアサリの復活の状況視察
②バイオマス発電の実情視察

---

## 視察依頼書送付願

令和　年　月　日

浜松市議会議長　　様

会 派 名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者氏名　会 長　平野　岳子 ㊞

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

（様式11）

A-6b-1

令和７年６月２０日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　７　年　６　月　１９　日（木） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②「バイオマス発電合資会社」バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者<br>氏名印 | 平野　岳子　斎藤　和志　加茂　俊武　久米　丈二<br>井田　博康　辻村　公子　柳川樹一郎　[redacted]　誠<br>鳥井　徳幸　倉田　清一　須藤　京子　露木里江子<br>小野田康弘　神間　郁子　中野　和幸　藤田　典良<br>鈴木　裕之<br>（計１７名） |

（出張の顛末）

別紙　報告書の通り

（備考）

バス借上げ（浜松城公園駐車場発着）９：15～４：30

浜松城公園[P] ＝＝ 弁天 ＝＝ 田原バイオマス発電合資会社 ＝＝ 浜松城公園[P]

（様式 11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 平野　岳子 |

（出張の顛末）

① 浜名漁協弁天島遊船組合[redacted]氏、SDGs アマモ再生事業部[redacted]氏より浜名湖のアマモ生態の現状を伺った。地球温暖化や浜名湖の環境の変化によりアサリは減少、生態は一度失うと復活が難しい中で、和歌山は 1/10 以下のアマモを 4 割にした実績があり、浜名湖はそれ以上を目指すという。今年は良い状況で 10 倍になる予想、それは黒潮によることと水温が低いことが要因。是非とも、浜名湖にアサリを復活頂きたいと願う。そのためにもアマモの生態が左右すること、まさに百聞は一見に如かず。「海は誰のものでもない。みんなのもの」と言い切る[redacted]氏の言葉が脳裏に焼き付く。

② [redacted]より座学、そして現場の見学を行った。10 年前に会社設立して、今年 4 月より運転開始したばかり。静岡ガスがプロジェクトに参入しており、バイオマス発電所の知見・運営ノウハウを得るためと伺った。木質ペレットはベトナム産を輸入して年 20 万 t 燃焼。田原市は周辺に、風力発電や太陽光発電を広大な面積に敷き詰めており、積極的に企業誘致してきた経緯がある。Co2 排出量を 2050 年まで実質ゼロにする「たはらゼロカーボンシティ」を目指すことに賛同し、住民との調整役もしているとのこと。本市でも間伐材や大竜材、B 級材などを利用して実現できないかと期待する。阿蔵山への企業誘致等か、可能性を探りたい。

（備考）

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | 弁天「浜名湖ネイチャーズ」 |
| 出張の理由 | 浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 齋藤和志 |

（出張の顛末）

**【弁天「浜名湖ネイチャーズ」】AM10:00～11:00**

**以下の説明の後、乗船し現場視察（競艇場南側）**

**■ 清掃活動（プロギング）**
毎月1回、弁天島から船で渡った無人島「いかり瀬」にて清掃活動を実施。2025年5月には29.5kg、3月には35kgのゴミを回収するなど、継続的な成果を上げている。
**■ アマモの育成・保全**
「海のゆりかご」と呼ばれるアマモの苗を育成し、浜名湖ワンダーレイク・プロジェクトと連携して苗植えを実施。静岡大学との共同研究も進行中。浜名湖のアマモ場は、かつて800ha以上あったものが1ha未満に激減し、現在は約30haまで回復
**■ 自然観察・環境教育**
子どもたちを対象とした海の生き物観察会や講演活動を展開。2024年度からは浜松市の環境学習指導員制度を活用し、教育活動を強化。
**■ 地域連携と資金調達**
しずぎんふるさと環境保全基金やキリン福祉財団、イオン黄色いレシートキャンペーンなどの支援を受け、地域と連携した資金循環を確立

（所感）
浜名湖ネイチャーズは、地域住民の主体性と継続性を基盤とした環境保全活動の好事例である。特に、無人島での清掃活動やアマモ育成といった実践的な取り組みは、自然との共生を体感的に学ぶ機会を提供しており、環境教育のモデルとしても以下のように高く評価できる。
■地域主導型の環境保全モデルとして他地域への展開
■学校教育との連携による（持続可能な開発のための教育）の深化
■地域資源を活かした観光・交流事業との融合

（様式１）

令和　７　年　６　月　２０　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　７　年　６　月　１９　日　(木) |
| 出　張　先 | 愛知県田原市 |
| 出張の理由 | バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 斎藤和志 |

（出張の概要）

【田原バイオマス発電所】PM1:00～2:00

以下の説明の後、施設見学を実施

田原バイオマス発電所は、愛知県田原市白浜二号に位置し、2025年4月に営業運転を開始した出力5万kWの木質バイオマス専焼発電所。年間発電量は約3.5億kWhに達し、これは一般家庭約11万世帯分の電力需要を賄う規模に相当。主燃料には東南アジアから輸入された木質ペレットを100%使用し、化石燃料を一切使わないカーボンニュートラルな発電を実現。燃料は専用コンテナで搬入され、保管・投入までを一体化した設備により、粉塵や延焼リスクを抑制しつつ高効率な運用が可能。発電方式は蒸気タービンによる汽力発電で、発電された電力は中部電力パワーグリッドを通じて固定価格買取制度（FIT）により売電し、売電単価は24円/kWhとされ、安定した収益構造が確保されている。この発電所は、石油資源開発（JAPEX）を筆頭に、静岡ガス&パワー、東京エネシス、川崎近海汽船、第一実業、岩谷産業、EFインベストメント、Solariant Capitalの8社が出資する合同会社によって運営されている。また、SBI新生銀行をアレンジャーとするプロジェクトファイナンスにより資金調達が行われた。地域との連携も重視されており、田原港などの港湾インフラを活用した物流体制の構築や、地元雇用の創出、再エネ拠点としての地域ブランド形成にも寄与している。なお、本発電所運営は、静岡ガス&パワーに委託されている。

（所感）

本発電所は、再生可能エネルギーの安定供給と地域経済の両立を実現するモデルケースである。特に、燃料供給から発電・売電までの一貫体制と、複数企業による協働体制は、他地域への展開可能性を示唆している。今後は、地域雇用や教育連携、カーボンクレジット制度との接続など、以下のように、さらなる波及効果が期待される。

- 地方自治体における再エネ導入モデルとしての活用
- 地域産業との連携による経済循環の創出
- 脱炭素社会に向けた政策提言の素材としての活用

（様式１）

令和　７　年　６　月　２０　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　７　年　６　月　１９　日　(木) |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 加茂俊武 |

（出張の顛末）

①　７年前、台風の為、全滅したアマモの再生に取り組んだ結果、かなりのアマモが再生をした現場を視察することができた。種を集め、巻くという地道な作業が身を結ぶかたちとなったことに敬意を表する。今後は、アマモが、アサリの復活にどのような効果をもたすのかが鍵となるであろう。

また、環境と観光を結びつける取り組みをされている。多くの市民の方に、浜名湖の魅力は風景のみではなく、生態系や環境などに大きな効果をもたらしているということを深く理解してもらうことにつながっている。

今後も、浜名湖の環境について、浜松市として、引き続き支援していくことが大切である。

②　今後２０年間は、田原市のバイオマス発電の運営に特化するという話であった。バイオマス発電の浜松市内への誘致の可能性を探る視察であったが、現状、田原市の特定目的会社に対し誘致を呼びかけることは厳しい認識をもった。また天竜材のチップ利用が可能かを探ったが、契約上、厳しいという回答であった。

しかし、バイオマス発電については、環境の観点から需要拡大が見込まれることから、新たな誘致に向け検討を続ける必要がある。製造業の企業誘致とともに、環境に特化した企業誘致を考えていく必要がある。

（備考）

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | 弁天「浜名湖ネイチャーズ」 |
| 出張の理由 | 浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察 |
| 出張者氏名 | 久米丈二 |

（出張の顛末）

浜名湖ネイチャーズのアマモ再生活動

浜名湖ワンダーレイクプロジェクトの活動の中で、アサリの再生をするための活動を視察した。

５年前までは浜名湖全体で８００ｈａ以上あったアマモ場が１ｈａ以下に減少したアマモ場を再生し、アサリの繁殖地であるアマモの移植等を行い浜名湖の重要特産物であるアサリの繁殖地であるアマモ場を再生、拡大し以前の観光の目玉でもあった弁天島周辺の潮干狩りの復活をめざし、地元漁港関係者とともに活動している。

浜名湖のアサリ、潮干狩りは、本市の観光の目玉であったため、それの再生は重要課題であるため、現地視察を行い問題可決の方策を検討し実施していく必要がある。

（所感）

本市の浜名湖潮干狩りは、舞阪地区、弁天島地区の重要な観光資源であり、観光事業として重要であるため、アサリの復活の為のその繁殖場所であるアマモ場の再生は、本市の重要課題と考える。

浜名湖は県の所管であるため、しっかりと連携をし後押しが重要と考える。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | 愛知県田原市 |
| 出張の理由 | バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 久米丈二 |

（出張の顛末）

田原バイオマス発電所への視察は、本市の大竜材などの活用などを出来ないかを確認するため、4カ所ある事業者のなかで、SPC 運営を静岡ガスに委託している田原バイオマス発電所を視察した。

田原バイオマス発電所は２０２５年４月に稼働したばかりの施設で，枯渇の恐れがない生物由来の（木製チップ）を燃料とし、発電するシステムで，木質バイオマス専焼発電所としては日本最大級の 112,000KW、年間発電量は一般家庭約 25 万世帯分（約 7．7 億 KWh）を予定しており、カーボンニュートラル、安定した電力の供給と２つの観点で地域貢献を目指している事業である。

（所感）

田原バイオマスパワー関係者一丸となり、電力供給を行うと共に、地域の一員として、地元との共存共栄を目指す事業であるとの説明を受けた。本市浜松としては、大竜材等の活用が出来ないかとの視察であったが，敷地、費用対効果等様々な問題などがあり、これからの研究が必要であると感じた。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日　(木) |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 井田博康 |

（出張の顛末）

① 浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査について徳増氏と浜名漁協弁天島遊船組合の間瀬組合長から説明を受けた。浜名湖のアサリが激減している原因の一つとしてアマモが減っている状況である。5年前まで800ha以上あったアマモ場が現在では1ha以下に減少し絶滅寸前になっている為、アマモを増やす試みを進めている。アマモを増殖するため、採取してきたアマモを網に入れ海に浮かせ、後に数日間海に沈めアマモの卵を育て、採取し砂と海水によりアマモを育てる。それを、トレイごと海に戻したり、粘土の団子にアマモを育ててアマモ場を広げている。

（所感）日本全域でアマモ場が現在では唯一残された貴重なアマモ場という事もあり、海の生態系を守るという意味でも、アマモの再生環境の為にアマモを増殖していることは重要なことであると考えます。アマモの再生が与える海の生物への影響を次世代を担う子供たちの勉強材料にし、魚釣りなどの遊びを取り入れた、観光資源に変えていく発想は素晴らしいと感じた。

（様式 11）

令和　7　年　6　月 20 日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年．6　月　19　日　(木) |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 井田博康 |

（出張の顛末）

②　田原バイオマス発電の実情調査の視察を行い，バイオマス発電合資会社[redacted]氏から説明を受けた。バイオマスは、資源として利用されるまでの過程でたいきちゅうの CO2 を吸収しながら成長しています。バイオマス燃料として燃焼させることで CO2 を排出しますが、トータルでは CO２の量が＋0 になるという考えです。バイオマス発電の概要は、木質ペレットをボイラで燃やして、高温・高圧の蒸気により、タービンを回転させ発電する。その後、蒸気を冷却して水に戻し再度利用する。

木質ペレットは、間伐材や木工製品の端材・おが粉などを圧縮成形し、円筒型にした木質燃料のことを言い，ベトナム産の木質ペレット（FSC 認証のアカシアの木）を 100％として調達していて年間 20 万トンの使用量である。発電量は発電端 50,000kw 送電端 44,799kw 一般家庭約 11 万世帯分の電力に相当する。

メンテナンスは、年 1 回 11 か月稼働し、1 か月で点検補修をしている。

（所感）商業運転開始が 2025 年 4 月 1 日で事業期間が約 20 年という事ですでに 20 年分の燃料の契約も済んでいるとのことであるが期間が長いだけに、災害などの対応が心配である。また、メンテナンスについては年 1 回 11 か月稼働し、1 か月で点検補修をするようであるが補修に時間が掛かるようになった場合、稼働が困難になると感じた。環境にはいいと思うが、メンテナンスを含めた売電の採算性が気になった。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　悟子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日　(木) |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 辻村　公子 |

（出張の顛末）

【浜名湖ネイチャーズ】環境や水質の変化により、長年行われてきた潮干狩りがここ数年間は出来なくなった。アサリの復活、豊かな浜名湖を取り戻すべき、浜名湖ネイチャーズの皆さんの手で減少したアマモを復活させ、浜名湖内ではアマモ場が順調に広がってきているようだ。日本全域でもアマモ場の減少は問題となっているが、水産資源や海の生態系を守るためにも、アマモ場を実際に目にし、手に取り説明を受けたことで、アマモ場の重要性を強く感じた。浜名湖の西の玄関口でもある弁天島が浜松の観光の賑わいの拠点の一つでもあるため、本市としても今後もこの課題と向き合っていかなければならない。

【田原バイオマス発電所】合同会社による事業であり、令和7年4月に稼働を始め約3か月、海外から輸入された木質ペレットを使用燃料としている。バイオマス発電はカーボンニュートラルの観点からも非常に有効であると同時に太陽光や自然環境に左右されることなく、安定した発電量が見込め、再生可能エネルギーのベース電源としても期待される。また田原市がエコガーデンシティーとしても力を入れており、これからの産業発展の街としてもこの大きな事業は今後の田原市全体の発展にもつながる。バイオマス発電所は未来の電力供給の理想の姿ではあるが、立地条件やバイオマス燃料として何を使用するのかなど、各地域によっての課題は大きく異なり、地球環境を考えゼロカーボンシティーを目指すためにもバイオマス発電は常に注目すべき事業であると考える。

令和７年６月20日

自由民主党浜松

会長　平　野　岳　子　様

提出者　柳　川　樹　一　郎

視察報告

視察先は、浜名湖弁天「ネイチャーズ」と愛知県田原市

1、　視察の目的は、浜名湖におけるアマモの生成、及びアサリの復活状況調査および視察。

2、　バイオマス発電合資会社における、バイオマス発電の実情調査および視察

視察復命

弁天のネイチャーズについては、資料もなく実態が読めない状況でアマモの育成状況を育成圃場を船に乗り視察しました。説明では６年前の台風で全滅状況となり、アサリの育成がなくなり浜名湖のアサリが取れなくなったとのことです。アサリの稚貝はアマモの株元に住み成長すると言う事でアマモの育成が大切であることを知りました。ネイチャーズは、県の補助や浜松市からの補助の話はなく、私たちが独自で頑張っているとのことでした。視察した圃場は、７年目になっている事でした。成果は出ているものと察しました。現在の圃場

水力・バイオマスなど再生エネルギーに踏み込んだ施策が必要と感じました。

以上視察報告とします。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 渥美　誠 |

（出張の顛末）

① 浜名湖のアマモ生成及び浅利の復活

浜名湖のアマモ場は、５年前に全体で８００ｈａ以上あったが、ほぼ全滅し一部が残った。その残った貴重な弁天島いかり瀬アマモ場を船から観察、群生するアマモの繁茂状況、小さな種を確認した。幼生アサリは、海中を浮遊し、２～３週間で稚貝になると、足糸と呼ばれる細い糸をアマモに付着させ、成長する。アマモ生成は、昨年、１０８ｋｇしか採取されなかったアサリの復活、本来の生態系の保全につながる。

② 田原バイオマス発電所

当発電所は、使用する燃料を、Ａ重油を助燃に、輸入調達した主にベトナム産アカシア木質ペレットに、２４時間稼働、５万ｋｗ（一般家庭約１１万世帯相当の電力）を特別高圧送電線に送る。使用する木質ペレットは、主に衣浦港から（一部田原港）年間２０万トン輸送し、日量換算で６００トンを燃焼、バグフィルター等により約１０トンの焼却灰を排出する。当発電所は、商業運転を本年４月から開始、特別目的会社８社で構成し、ＳＰＣ運営を静岡ガス（株）、運転・保守を東京エネシス（株）が担う。総工事費は、はっきり言えないが、数百億円との事です。

（備考）

＜説明者＞

・浜名湖ネイチャーズ[redacted]氏　アマモ研究　[redacted]氏

・田原バイオマス発電所合同会社　[redacted]氏

1. 視察日

令和7年6月19日(木)

2. 視察先および内容

(1)浜名湖アマモ場(浜松市西区)

浜名湖では、アマモ(海草)の再生・保全活動が近年進められています。アマモは水質浄化や魚介類の産卵・育成場として極めて重要な役割を果たしており、同時に二酸化炭素を吸収する「ブルーカーボン」としても注目されています。

今回の視察では、地元漁業者が中心に、苗の植え付けや成長モニタリングを行う取り組みを伺い、実際にアマモが育成されている浜名湖ボートレース場東側も確認しました。地域の子どもたちを対象とした環境学習や体験活動にも活用されており、環境教育・生物多様性・地域の誇り形成という点でも先進的な事例でした。

(2)田原バイオマス発電所(愛知県田原市)

田原市にあるバイオマス発電所は、主に木材ペレットを燃料とする再生可能エネルギー発電施設です。視察では、発電所の基本構造や燃焼システム、排ガス処理工程などの説明を受けました。

特徴的なのは、燃料となる木材ペレットの多くが海外(とくにベトナム)からの輸入で賄われている点です。グローバルな資源流通の中で安定供給を確保しつつ、カーボンニュートラルな発電として運用されている一方、地元林業との連携や国産バイオマス資源の活用には依然として課題が残されていることも確認されました。

3. 所感

今回の視察を通じて、浜名湖のアマモ保全活動と田原のバイオマス発電の両事例から、**「地域資源と地球環境の両立」**をいかに実現するかという視点で多くの示唆を得ることができました。アマモの再生活動は、地域住民の参加と長期的な視野が不可欠であり、行政としての支援体制強化が望まれます。

一方、田原のバイオマス発電では、海外依存の現状を踏まえつつ、地域の森林資源の利活用やエネルギー自立への道筋をどう描くかが問われています。浜松市においても、森林資源のポテンシャルを活かした地域エネルギーのあり方を再考し、持続可能な地域社会の実現に資する政策展開が必要と思われました。

（様式 11）

令和　7　年　6　月 20 日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | ①舞阪町弁天島「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及びアサリの復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 倉 田 清 一 |

（出張の顛末）

1．浜名湖におけるアマモの生成、及びアサリの復活状況調査について

① 浜名漁協弁天島[redacted]氏、SDGs アマモ再生[redacted]氏より浜名湖のアマモ生態の現状と再生に向けた取組みの説明を受け、船上から取り組み状況とその成果を確認した。

② 台風や異常な温暖化等の影響で浜名湖のアマモは全滅したが、地道な取り組みの成果で効果が表れてきており、アサリの復活を大いに期待するものである。
今後も市としての支援の継続が大切である。

2．バイオマス発電合資会社　　田原バイオマス発電所の実情調査について

① 田原バイオマス発電所の概要

・2025 年 4 月に営業開始、出力 5 万 kwh の木質バイオマス発電所。
年間発電量は約 3.5 億 kwh で、一般家庭約 11 万世帯分の電力需要を担う。
主燃料はベトナム産ペレット 20 万 t/年を輸入、化石燃料を使わないカーボンニュートラルな発電を実施。

・田原市は周辺に風力発電や太陽光発電を広大な敷地に設置しており、積極的に企業誘致をしてきた経緯がある。また、2050 年までに CO2 排出量を実質ゼロにする「たはらゼロカーボンシティ」を目指している。

② 広大な森林を有する浜松市におけるバイオマス発電は環境の観点から需要の拡大が見込まれる。また、私は耕作放棄地等を利用した早生樹の普及による CO2 削減と、その木質ペレットを活用したバイオマス発電の検討をしている。
今後も実現に向けて活動していきたい。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 須藤　京子 |

（出張の顛末）

① 浜名湖におけるアマモの生成及びアサリの復活状況について、浜名湖ネイチャーズ会長と湖西漁協の[redacted]氏の話を伺い、船で浜名湖のアマモの生育状況等の視察を行った。日本全土に生息しているアマモではあるが、浜名湖ではおよそ６年前の大雨によりそのほとんどが壊滅状態になるという被害を被った。その後一部に残ったアマモから種を採取して、繁殖活動を行いこの頃では浜名湖内の多くに生育する状況がみられるようになった。船上から見る限りでは、アマモの葉には貝類の幼生やイカの卵などがびっしりと付着した様子が見られ、アサリを黒鯛等の食害から守るという役割についても実感として感じることができた。しかしながら、浜名湖におけるアマモの生成については静岡県の役割や本市当局の見解、そして漁協の見解も同一ではないように思われるので今後はそうした調整も含めて成り行きを見る必要があるのかもしれない。

② 田原市の埋め立て地に建設されているバイオマス発電所は静岡ガスを含む８社が出資をし、静岡ガスが運営を受託している。本市でも木質バイオマス発電は話題に上ることはあったが、材料の供給バランスとその効率性から見送られている。今回の視察先では、使用燃料は木質ペレットでありその全てをベトナムから輸入している。新しい時代のエネルギー供給のあり方としては、太陽光発電や風力発電、また水素を燃料とした発電など CO2 を排出しない電力供給のあり方が検討される中で、今後の課題について考えさせられる視察となった。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 露木　里江子 |

（出張の顛末）

① 浜名湖ネイチャーズの活動は、湖西の漁協徳増氏とも連携が行われおり、浜名湖の両岸の協力は素晴らしい。アマモ再生の活動は、村櫛地区のNPOや、他の活動団体でも進められており、今後その結果が期待される。五月に私は、個人で同じ場所を視察し、船を降りてアマモの種を採る活動に参加させていただいたが、今回よりもだいぶ葉が緑色であった。葉の表面には、貝類の幼生や藻類などがびっしり付着したためであり、アマモの果たす役割の大きさを強く感じた。浜名漁協や、本市農水産課水産グループとの協調が重要である。

② バイオマス発電は常にコストが問題となるところであるが、すべて輸入木質ペレットであるとのことで、その効率に驚いた。木質ペレットはコンテナにて保管されている。調達の安定性、品質の確保・価格・設備との適合が事業性と合致するが常に最重要であることは実感した。国産燃料の可能性に淡い期待をしていたが、燃料契約は長期契約で、供給先の変更などは難しいとのこと。またこの事業が特別目的会社であり、安定した利益の確保が重要視される事情などから、ここでの可能性は限りなく低いと感じた。田原市の目指す姿の象徴となるものでもある。

（備考）

「たはらゼロカーボンシティ」

ゼロカーボンシティとは、2050年に$CO_2$の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を公表した地方自治体であり、表明した210の自治体に、田原市、本市もその自治体である。

（様式 11）

令和　7　年　6　月 20 日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日　(木) |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 小野田　康弘 |

（出張の顛末）

①　浜名湖では、800ha 以上あったアマモ場が 7 年前にほぼ消失した。浜名湖ネイチャーズでは、魚や貝などの生き物たちのすみかや産卵場所として、生態系を支えるアマモを残存していた種を使い、復活を試みる活動を行っている。今年は、10 倍以上の成長を見せているとのこと。気候変動や下水道整備等、環境整備による水質変化も生態系に影響している。アマモの育成は、必要なことであるが、同じ活動をしている団体が複数存在している状況を考えると、互いに協力関係を構築することにより効率の良い活動にしていく必要があると感じた。

①　今年 4 月から稼働した、田原市にある田原バイオマス発電所合同会社を訪問し、事業の概要と施設見学を行った。生物由来のバイオマス燃料（木質ペレット）を燃焼し、50,000kw を発電している。バイオマス発電はカーボンニュートラルを目指し、安定した電力供給が期待されている。燃料の木質ペレットは、海外からの輸入で賄っており安定供給を目指している。国内産の木質ペレットとのコスト比較はしていなとのこと。田原市では、カーボンニュートラルの実現に向け、同規模のバイオマス発電所が稼働している。立地も三河湾に沿っており、工業用地に建てたこともあり、好条件であった。本市導入には、まだまだハードルが高く、バイオマス発電の規模とコストを今後注視していくことが必要と感じた。

（備考）

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 神間都子 |

（出張の顛末）

① 浜名湖ネイチャーズの[redacted]氏、アマモの研究の[redacted]氏の話をきき、実際にアマモが再生し生息している、現場を視察した。かつては８００ha以上に及ぶアマモ上は現在１ha未満に減少し、アサリの生息にも大きな影響を及ぼしている。全国的にも、ブルーカーボンの視点から、アマモ生息の重要性について叫ばれており、本市でもアマモ再生事業が予算化されている。失ったものを再生するには継続的な研究と地道な活動が求められる。さらに地域・企業を巻き込む仕組みや、子供たちにをはじめ、「自分たちの浜名湖」の意識の醸成が必要である。浜名湖ネイチャーズの取り組みをこれからも注目し応援していく。

② 田原バイオマス発電所合同会社から説明を受け、木質ペレットによる発電の現状と課題の確認をした。静岡ガスが加わっていることに驚きと、環境への意識の高さを感じた。木質ペレットの輸入は２０年間の安定供給契約がされ、２４時間稼働させることで、一般家庭約１１万世帯分の電力を供給可能とのこと。商業運転してまだ２カ月程度だが、田原地域に風力・ソーラーなど再生可能エネルギー施設が集中し、今後さらに注目の地域となることは間違いない。

（備考）

カーボンニュートラルとは、森林が資源として利用されるまでの過程で CO2 を吸収し成長しそれをバイオマス燃料として燃焼させることで CO2 排出量が±０になる考え方。海外での違法伐採を防ぐ仕組みとして、FSC 材、成長の早いアカシアを資源としている。エネルギーの獲得と森林の再生の仕組みとして可能性は大きいが、港湾など輸入材の輸送路の確保の点で、本市で取り組むには、課題は大きい。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（水） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 中野　和幸 |

（出張の顛末）

① 浜名湖ネィチャーズから説明を受けながら、現在のアマモの状況を見学した。6年前の台風により、浜名湖のアマモが壊滅して、昨年までは浜名湖にはほとんどアマモが無くなった。そして、同じようにアサリもほとんど採れなくなった。しかし、今年は海流の変化やアマモの種が良かったせいか？アマモが、浜名湖に増える兆しがみえる。今年度、浜松市も初めて「アマモの再生事業」に予算を付けしている。アマモは「海のゆりかご」と呼ばれている。アマモが浜名湖に広がり、アサリや魚を守り、浜名湖で再び「潮干狩り」ができるようになる。そして近い将来にアマモ場が、カーボンクレジットに利用できる。そのような予感を感じさせられる視察であった。

② 田原バイオマス発電所合同会社から説明を受けながら、発電所を見学した。ここで使用される燃料は、木質ペレット。自然環境に左右される不安定な発電ではなく、安定した発電ができるように輸入しての使用。カーボンニュートラルという考え方に基づいたCO2を増やさない方法との事。

（備考）

２０５０年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル。「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」※から、植林、森林管理などによる「吸収量」※を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減 並びに 吸収作用の保全及び強化をする必要があります。

（様式11）

令和　7　年　6　月　20　日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　岳子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和　7　年　6　月　19　日（木） |
| 出　張　先 | ①弁天「浜名湖ネイチャーズ」<br>②愛知県田原市 |
| 出張の理由 | ①浜名湖におけるアマモの生成、及び浅利の復活状況調査・視察<br>②バイオマス発電合資会社　　バイオマス発電の実情調査・視察 |
| 出張者氏名 | 藤田　典良 |

（出張の顛末）

①　浜名湖におけるアマモ・コアマモ場再生事業の現地視察を行った。

かつて 800ha 以上に及んだアマモ場は現在 1ha 未満に減少し、弁天島のアマモ場が最後の貴重な生育地となっている。あわせて、環境変化に対する適応力を有するコアマモの導入と成果についても確認した。

本事業は生物多様性の保全とブルーカーボンの実現に資するものであり、今後、学術的知見の蓄積とともに、市民・企業との協働体制の構築を含めた継続的支援が必要と考える。

②　田原バイオマス発電所を視察し、木質ペレットによる発電の現状と課題を確認した。燃料は海外から輸入された木質ペレットを使用し、20年契約により安定供給が図られている。一方、天竜地域の木材活用について質問したところ、搬出経路の未整備に加え、既存契約の制約から現時点では現実的でないとの見解が示された。

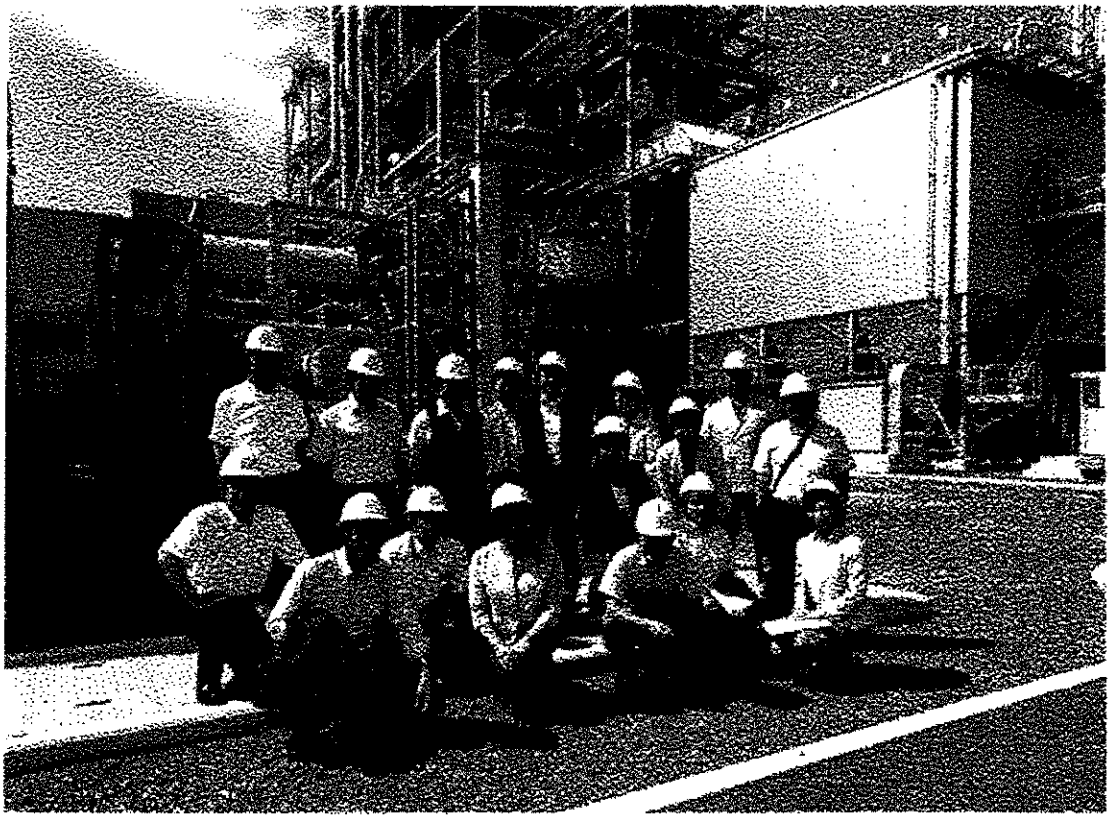
本市において同様のバイオマス発電施設を設置するには、地場資源の供給体制やインフラ整備など、長期的視野での検討が必要であると感じた。

（備考）

① 浜名湖ネイチャーズ[redacted]　氏
　アマモ研究　[redacted]　氏
② 田原バイオマス発電所合同会社　担当者

令和7年6月20日
自由民主党浜松

# 視察報告書



浜松市議会議員

鈴木裕之

日時：2025年6月19日（木）10：00～12：00
訪問先：浜名湖ネイチャーズ（浜名漁協弁天遊船組合）
目的：浜名湖のアサリ等の水産資源を回復させるために活動しておられるアマモ再生の取組状況や現場を視察し、浜名湖の水産資源戦略の展望を模索する。

【浜名湖のアサリ再生に向けて】
漁獲量が激減している浜名湖アサリ。浜名湖のアサリの復活には、海草の「アマモ」の群生地が必要だとされ、3年前からアマモの種まきや育成などの保全活動を浜名湖ネイチャーズが実施してきた。2025年4月に、約5年ぶりとなるアマモの群生が確認され、浜松市中央区の弁天島海浜公園で、アマモ見学ツアーが始まった。海草のアマモは、沿岸の浅い海域に生えていて、魚やアサリなどの生物にとって生育や産卵場所になるため、「海のゆりかご」とも呼ばれている。

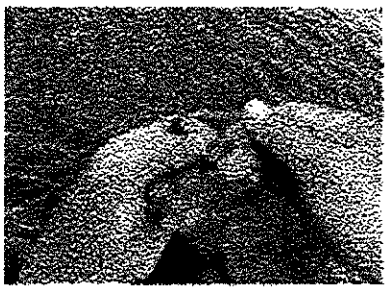
【アマモの現状】
●浜名湖全体で800ヘクタール以上あったアマモ場が現在では1ヘクタール以下に減少しており、弁天島のアマモは唯一残っている貴重なアマモとなっている。
●日本全域でアマモが著しく減少している中で、いかり潮のアマモ場は生態系を保っている。それは地球温暖化や浜名湖の環境変化に体制を持っている可能性があり、研究対象にもなっている。
●2025年は6月末までに10万粒の種が取れる予定。流れてきたアマモの種をコツコツ拾って袋に入れて光合成させ、2週間で沈めて増やす努力をしている。
●アマモは水温が低いのを好み、黒潮の終焉とともに増えてきており、去年と比べると今年は10倍ぐらいに増えている。

【所感】
本視察では、長年にわたり減少が続く浜名湖のアサリ漁獲量の回復に向けて、地元関係者が取り組むアマモ再生活動について、現地の状況を確認するとともに、保全の現場で活動する皆様から貴重な説明を受けた。
かつて800ヘクタール以上あったアマモ場が、現在では1ヘクタール以下にまで激減しているという事実は、浜名湖の水産資源を取り巻く深刻な状況を象徴している。そうした中、弁天島にわずかに残されたアマモ場を守り、再生させようとする取り組みは、地域の水産資源の再興にとって極めて意義深いものである。
アマモは「海のゆりかご」とも称され、アサリや魚類の生息・繁殖に欠かせない環境を提供する海草である。今回の視察では、アマモの種子を拾い、袋に入れて光合成させてから海中に沈めるという、地道ながら確かな再生手法が紹介された。2025年には約10万粒の種子が採取できる見込みとのことで、年々その成果が着実に現れていることが確認され

た。また、いかり瀬におけるアマモ場が、温暖化や環境変化に対して耐性を持ち、今後の研究対象となっている点も注目に値する。これらの知見が蓄積されることで、地域だけでなく全国のアマモ再生活動や水産資源保全にも寄与する可能性を秘めている。

本視察を通じて、アマモの再生が単なる自然保護にとどまらず、アサリ資源の回復、地域漁業の再生、さらにはエコツーリズムなど多方面への波及効果を持つことを再認識した。今後は、こうした現場の取り組みに対する支援体制の強化や、市民参加型の環境保全活動の展開なども視野に入れた施策の検討が求められる。今回の視察を本市の施策に活かしていきたい。







日時：2025年6月19日（木）13：30～15：00
訪問先：田原バイオマス発電所合同会社
目的：先進的なバイオマス発電の取組みを調査し、本市におけるエネルギー施策の展望を模索する。

【会社概要】
会社名：田原バイオマス発電所合同会社
設立日：2015年9月29日
本店所在地：愛知県田原市白浜二号4番8
事業内容：愛知県田原市におけるバイオマス発電所の建設および運営、ならびにバイオマス発電事業・関連事業

【発電所概要】
木質ペレットを主燃料とした発電所を建設し、安定電源供給のための運営を進める。
発電設備所在地：愛知県田原市白浜2号4-8
発電出力：50,000kW
想定年間発電電力量：約3.5億kWh（一般家庭約11万世帯分に相当）
燃料種別：木質ペレット（主燃料）、パーム椰子殻（代替燃料）
本工事開始：2023年3月
運転開始：2025年4月
出資会社：石油資源開発（39.9%）、静岡ガス&パワー（20%）、東京エネシス（20%）、川崎近海汽船（7%）、第一実業（6%）、岩谷産業（5%）、EFインベストメント（2.0%）、Solariant Capital（0.1%）
ファイナンス：株式会社SBI新生銀行をアレンジャーとした銀行団によるプロジェクトファイナンス

●将来の脱炭素社会実現に向け、化石燃料を使用しない再生可能エネルギー源の一つとしてバイオマス発電が期待されている。田原バイオマス発電所は、再生可能エネルギー由来電力の安定供給への貢献や環境負荷の低減に向けたまちづくりに取り組む地元自治体などの期待に応える事業として、バイオマス発電をはじめとする再生可能エネルギーへの高い関心と強みを持つ出資8社が、本事業会社を通じて推進している。

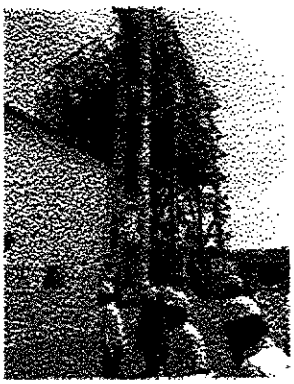
【所感】

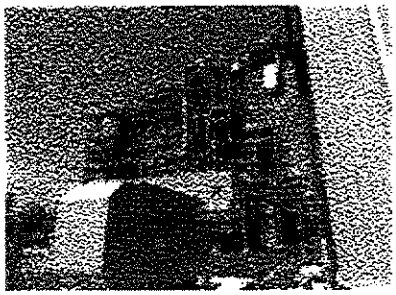
田原バイオマス発電所合同会社を訪問し、事業概要や再生可能エネルギーへの取組について詳細な説明を受けるとともに、施設の運営方針や将来展望について意見交換を行った。同発電所は、木質ペレットを主燃料とする発電所であり、発電出力は5万kW、年間約3.5億kWh（一般家庭約11万世帯分）の発電を想定している。これは、地域における安定した電力供給に寄与するのみならず、化石燃料に依存しない再生可能エネルギーの供給源として、将来的な脱炭素社会の構築に向けた重要な一歩といえる。

出資には、エネルギー関連を中心とした多様な企業8社が名を連ねており、金融機関によるプロジェクトファイナンスを活用した取り組みである点にも注目したい。特に、民間資本とノウハウの結集により、持続可能な発電事業が地域社会と連携して進められている姿は、本市において再生可能エネルギー導入を進める上での大きな参考となった。

また、再生可能エネルギー導入にあたっての課題として、燃料調達の安定性や輸送・保管にかかるコスト、安全管理の重要性などが挙げられたが、同発電所ではこうした課題に対し、先進的な知見と長期的視点をもって対応を図っていることが印象的であった。

今後、本市においても地域特性を踏まえた再生可能エネルギーの導入・拡充を進めるにあたり、今回の事例は大変有益なヒントを与えてくれるものであり、官民連携や資金調達の在り方を含めて、柔軟な制度設計や計画策定の必要性を改めて感じた。







調査研究費

A070

# 支払証明書

| | | 百万 | 十万 | 万 | 千 | 百 | 十 | 円 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 金　額 | | | | ¥ | 1 | 4 | 9 | 7 |

但し　7/7 先進地視察時（湖西市新所子育て支援センター宛）土産代金として

浜松市中央区元城町 103-2　　ファミリーマート浜松市役所／S 店

土産（うなぎパイ）代　@1,497 円×　1 箱

FamilyMart

浜松市役所／S店
静岡県浜松市中央区元城町１０３番地の２
電話：053-450-0650

2025年 7月 4日（金） 9:16
ﾚｼﾞ 1-6870　　責No. 004

領　収　証

| | |
|---|---|
| 食品 | ¥1,497軽 |
| 合　計 | ¥1,497 |
| （ 8%対象 | ¥1,497） |
| （内消費税等 | ¥110） |
| お　預　り | ¥2,000 |
| お　釣 | ¥503 |

「軽」は軽減税率対象商品です。

上記の金額を支払ったことを証明します。

令和 7 年　7　月　4　日

代表者名　　平野　岳子 [redacted]

（様式11）

A0701

令和７年　７月　７日提出

（あて先）　会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会長　平野　居子　様

# 報　告　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和７年　７月　７日（月） |
| 出　張　先 | 湖西市新所2820番地<br>新所子育て支援センター「にこりん」 |
| 出張の理由 | 新所子育て支援センター「にこりん」　先進事業調査・視察 |
| 出張者氏名 | 平野　居子　　加茂　俊武　　久米　文二<br>辻村　公子　　倉田　清一　　露木里江子<br>神間　稔子　　中野　和幸　　鈴木　裕之<br>（計９名） |

（出張の顛末）

自家用車２台 乗り合わせて移動・視察

9:00集合・出発　浜松市役所　（13:00帰庁）
10：00～　子育て支援センター「にこりん」　視察

（備考）

視察先土産持参（別紙 7/4 領収書 添付）

（様式８）

令和７年 ６ 月２３日

会派名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者　　会 長　平野　岳子　様

申請議員　視察幹事　鈴木 裕之 [redacted]

# 出　張　届

下記により、政務活動のため、出張することになりましたので届け出ます。

記

１　出張者

平野　岳子 議員、 加茂　俊武 議員、 久米　丈二 議員、 辻村　公子 議員、
倉田　清一 議員、 露木里江子 議員、~~中野和孝 議員~~、 神間　郁子 議員、
鈴木　裕之 議員　　中野和孝 議員

（計９名）

２　期間及び出張先

令和 ７ 年 ７ 月 ７ 日（月）　１日間

湖西市新所 2820 番地
新所子育て支援センター「にこりん」

３　目的

子育て支援センター「にこりん」視察

---

## 視察依頼書送付願

令和 ７ 年 ６ 月23日

浜松市議会議長　高林 修 様

[redacted]

会 派 名　浜松市議会　自由民主党浜松
代表者氏名　会 長　平野　岳子 [redacted]

上記のとおり、所属議員が政務活動のため、出張することになりましたので、視察先あての視察依頼書の送付をお願いします。

(様式６)

(F0702)
A050/

# 旅　費　支　払　証　明　書

| | |
|---|---|
| 出張年月日 | 令和７年　８　月２５日（月）～　８　月２６日　（木）２日間 |
| 出張先（目的） | B班　行政視察　8/25 広島市【広島平和記念資料館】<br>8/25 姫路駅前市役所（山陽百貨店）<br>8/26 姫路市役所 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 出張者氏名 | 柳川樹一郎 | 倉田　清一 | 戸田　誠 | 加茂　俊武 |
| | 交渉の為キャンセル<br>~~高林　修~~ | 辻村　公子 | 藤田　典良 | （以上６名） |

旅　費　額　内　訳

| 項　目 | 金　額 | 備　考 |
|---|---|---|
| 交通費 | ２２９，８８０　円 | ①7/29　JR新幹線チケット代 浜松―広島―姫路―浜松@32,840円×7名分 |
| 〃 | ▲　３１，６００　円 | ②8/4 上記1名キャンセルにつき払戻金(払戻手数料1,240円／JR東海浜松) |
| 〃 | ５，５６０　円 | 8/25現地交通費　③④タクシー代　広島駅 ～ 広島平和記念資料館　往復<br>@1,390円×2台×2【4台分】＝5,560円 |
| 宿泊費 | ８８，８００　円 | @１４，８００円　×　1泊　×　６名分 |
| 日　当 | １８，０００　円 | @１，５００円　×　２日　×　６名分 |
| | | |
| 合　計 | ３１０，６４０　円 | |

| 金　額 | | 百 | 拾 | 万 | 千 | 百 | 拾 | 円 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ¥ | 3 | 1 | 0 | 6 | 4 | 0 |

上記の金額を政務活動費として支払ったことを証明します。

令和７年　８　月２９日

代表者　会長　平野　岳子 [redacted]

<詳細>　領収書【４件】　別紙添付
- 新幹線切符代・キャンセル代精算２件　【7/29・8/4　JR東海浜松駅】
- 8/25 現地利用タクシー代（２件 ③④）実費

※尚、タクシー利用については、時間的、地理的要因の為タクシーを利用し視察実施した。

①

領収書No　127
駅No　5201270　窓口No　1

# 領　収　書

[redacted]　様

金額　￥229,880円
（消費税等込み・10%）

但し、乗車券類として

上記金額正に領収致しました

2025年 7月29日
東海鉄客鉄道株式会社
登録番号：1318000103159

ご利用いただきましてありがとうございます

印紙税申告納
付につき名古屋中村
税務署承認済

渋谷駅

現金出納社員 [redacted]

②

発行日時2025年 8月 4日 21:36
駅No　5201270　窓口No　3

# 払　戻　計　算　書

発売額　￥32,840円
払戻手数料額　￥1,240円
差引払戻額　￥31,600円
（消費税等込み・10%）

上記金額を払い戻しました

東海鉄客鉄道株式会社
登録番号：1318000103159
渋谷駅